

十三年八月

盟邦獨逸に使用して

ヒトライズムの成果を語る

(工學博士 伍 堂 卓 雄氏述)

社団法人 橫濱貿易協會

刊行の辭

本會は去る七月二日、國民使節として滯獨六ヶ月、今事變の真相單明と盟邦の政治經濟近狀を視察して歸朝された、元商工大臣、貴族院議員、海軍造兵中將、工學博士佐堂卓雄閣下の歡迎會を開催した。本編は即ち其の際に於ける閣下の御講演の筆記録である。

閣下が本會の爲に講演を快くされた事茲に三回。其の第一回は昨年五月十五日商工大臣として、第二回目は同じく昨年七月廿七日日本會第九回貿易夏季大學に講師として御來會を得、今回が即ち第三回目に相當するわけであるが、とりわけ去る七月二日は打續く豪雨に關東一帯が水禍の猛襲を受け京濱間の交通が危まれてゐた際にも拘らず、おして御來會を辱うし、貴重なる御講演を賜つたのみならず閣下が獨逸から持歸られた「世界の大敵」「疾走道路」「耕地征服」等四卷のトーキー映畫を観察する事を得、其の裨益する處尠くなかつた。

本會は閣下の重なる御好意を感謝すると共に、本編收むる處のヒトライズムの成果が現在我國の政治に經濟に、採つて持つて參考とすべき貴重なる文献であると信じ特に刊行に附した次第である。

昭和十三年八月

社團
法人

橫濱貿易協會

盟邦獨逸に使して

元商工大臣、貴族院議員
海軍造兵中將、工學博士

伍 堂 卓 雄

目 次

一、序	二
二、獨逸五ヶ月間の出來事	二
三、ヒットラー總統の對日感	三
四、經濟人の對日感	四
五、外資提携上の注意	五
六、現行第二次四ヶ年計畫	六
七、第二次四ヶ年計畫の全貌	七
八、國民精神總動員の華	八
九、結 論	九

（一）其の長官に人を得て——（二）本計畫の狙ひ所——（三）物資自給策の實行——（四）廢物利用と代用品使用——（五）自給計畫の諸相（イ、食糧。ロ、油脂。ハ、液體燃料。ニ、鐵。ホ、紡績原料。ヘ、護謨。ト、輕金屬）——（六）生産力の擴充（イ、第一の基礎條件。ロ、第二の基礎條件。ハ、第三の基礎條件。ニ、D・A・Fの眞價。ホ、獨逸民衆の生活狀態。ヘ、第四の基礎條件。ト、第五の基礎條件

（一）國內統一——（二）軍備の充實——（三）完全なる經濟管理——（四）ヒットラーの人格化

二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二二
二

一、序

私の獨逸へ参りました目的は、申す迄もなく第一には今回の事變に對しまして、獨逸政府並に國民の執りました態度に對して、日本國民の總意を代表して感謝の意を述べることにあつたのであります。それと同時に私の極く自由な立場から、日獨兩國の間に適當なる經濟協力の方法を政府首脳部並に民間の主なる人々と懇談を致すことによつて見出したい、斯様な考へを以て参つたのであります。

なぜ經濟的に協力の必要があるかと申しますと、日本と獨逸は双方共所謂持たざる國でありまして、原料を輸入して製品を輸出するのでありますから、之をこの儘放任して置きますと、將來世界の各地に於て競争の立場に置かれなければならない。随つて今日政治的に結び付いて居りまするが、この經濟的關係から弱められる虞がありはしないか、斯様に考へましたこと、又是から擴つて参りまする占據地域の經濟工作に對しまして、親善關係にある兩國が、双方共貧乏であるけれども、有無相通じて協力する途がありさうなものだ、斯様な理由からこの機會に於て經濟協力の適當な手段を見出したいと思つたからであります。同時に現在我國に最も關係の深い統制經濟、是はその形式に於てはよく獨逸に似て居るのでありますから、彼國に於ける統制經濟の運用の實情を參考の爲に調べて見たい。この三つが私の渡獨の主なる目的であつたのであります。

二、滯獨五ヶ月間の出來事

私の滯在期間は約五ヶ月間でありましたが、この間に色々重大な事件が獨逸の内外に起りました。國內に於きましては御承知の通り今春の勞頭に内政の大改革が行はれまして、軍と黨とが實質的に統一され、又閣

僚の全部が黨人を以て置き替へられたのであります。國際關係に於きましては昨年の暮に、現在英國の外務大臣でありますハリファックス卿が渡獨致しまして、獨英間の親善工作を試みたことは御承知の通りであります。それから次には伊太利が防共協定に参加した事、又最も内外に影響がありましたのは、二月二十日にヒットラーが議會を招集致しまして、内政外交に關する重大なる演説を致しまして、極東政策——對日政策をはつきりと具體的に、率直に言明致しまして、同時に滿洲國承認の意圖を明かにしたことであります。それから後に壤國併合の事があつたのは御承知の通りであります。

三、ヒットラー總統の對日感

私は著きますと間もなく、政府の首腦部と會見を致しました。ヒットラー總統を始め航空大臣のゲーリング、時の國防大臣のブロンベルグ、時の外務大臣のノイラート、宣傳大臣のゲツベルス、又當時經濟大臣を辭職をして間もなかつた中央銀行總裁のシャハト、その外その當時駐英獨逸大使でありまして今日外務大臣でありますリッペントロップ、是等の人々に會見を致しまして、私の目的に關係して隔意なき意見の交換を行つたのであります。之を總括して申しますると、何れも我が國民の好意に對しましては、衷心から感謝の意を表しました。又兩國の經濟協力の問題につきましても、熱心に共鳴したのであります。

その中でも最も強く賛成をし、又私は是非基礎工作だけでもやつて貰ひたいと云ふ熱望のありましたのはヒットラー總統とゲーリング及びリッペントロップであります。ヒットラー總統は私との話の中に斯う云ふ事を言つたのであります。『日獨兩國の關係は現在政治的にはしつかりと結び付いて居るが、自分の理想は經濟的關係を政治的關係と併行させたいのである。併しながら經濟的關係は政治的關係の如く、簡單に決行する事は難かしい。種々の國內事情から兩國の爲に最も都合の好い方法に依つて提携をする必要がある。その

手段を見出す事は君が來られたことに依つて非常に都合が好いと思ふ」。斯う云ふ話がありました。それからゲーリングも話の中に、經濟的協力の成立について希望を述べたことは總統と同じであります。又斯う云ふことも言つたのであります。『最近蔣介石の使ひとして支那の某中將が來たが、その人に對して自分は、支那が赤化されることは恐らく蔣介石の本意ではなからう。是は今回の事變に依つて已むを得ず國共合作を行つて居るのであらう。東洋の赤化防止はどうしても日本と手を握らなければ出來ないことである』と。ところがその中將の云ふには、『民國の共產主義が今日の如くに發達したのは、寧ろ日本が援けたからである。曾て共產軍に武器を供給したのは日本である』。と斯様な事を話して居つた。もとより自分は一笑に附したけれども、自分に對してさへも斯様なことを言ふのであるから、他の國ではもつと思ひ切つた宣傳をして居るだらう。と云ふことであります。

四、經濟人の對日感

翻つて民間の空氣を見ますのに、參りました當時に於きましては、我國に對する好意については固より變らないのでありますけれども、經濟界特に貿易業者の間には、次に申しますやうな理由に依つて、支那の感情を獨逸がこの上害することは控へた方が宜いと云ふやうな考へを持つて居る者が少くなかつたのであります。その理由と申しますのは、第一には獨逸の對支貿易が近年著しく躍進しつゝあることであります。獨支の貿易は過去に於ては大したことがないのであります。輸出入を合せて總額が約三億マークに満たない程度であります。併し一九三六年から初めて獨逸側に取つて出超に移つたのと、支那から輸入致しますものは金額は左程でもありませんが、獨逸に取つて最も必要なものばかりであります。その王座を占めて居りますのは卵であります。今日獨逸で使用されて居ります安い卵は、殆ど全部支那から來て居るのであり

ます。その次は特殊の鑛石であります。その鑛石の中でも軍需工業上最も必要なタングステン鑛石即ちウルフラムは、輸入の六割を支那に仰いで居るのであります。支那の南方の江西省並に廣東省からであります。このウルフラムの鑛石は支那中央政府の專賣でありますから、政府が旋毛を曲げればその鑛石は獨逸へ輸入されないことになる。支那からの輸入が止りますと忽ち軍需工業に非常な影響を及ぼすのであります。要するに獨支の貿易殊に獨逸に取りまして有利に進みつゝあつた貿易に影響を及ぼすことが一つの理由。もう一つはこの事變の見透しに對する疑惑であります。日本が勝つと云ふことについては誰も疑つて居ないのであります。現代の戦争は勝つた國が必ず榮えると云ふ譯ではありませんから、將來我國の財政等に鑑みまして、經濟協力に對して躊躇する氣味があつたのであります。是等の事情が綜合されて、ヒットラー總統以下政府首腦部の殆ど絶對的とも稱すべき好意に對して、この方面から相當のブレーキが掛つて居つたのであります。

私はこの間に處しまするのに、第一には事變の見透しに對する吾人の確信と、將來極東に於て經濟上有利なる地位を確保しやうとするのには、どうしても日本と手を握らなければならないと云ふやうな意味を以て各方面で演説をしたり或は懇談を遂げたりしたのであります。殊に貿易の中心でありますハンプブルグに於て之に努めたのであります。ところが其の後我國の長期戰に對する覺悟が牢固として動かないこと。又占據地域に於ける經濟工作が迅速に成功しつゝあること。一方軍事行動は著々として進捗しつゝあること。又獨逸國內に於きましては只今申しましたやうに、ヒットラーの英斷に依つて内政が統一され、殊に對日政策をはつきり言明致しました等の事に依つて、彼等業者の考へも、矢張り此の際日本と手を執つて進むべきであると云ふやうになつて來たことは明かであります。随つて私の仕事もやり易くなり、經濟協力の基礎工作だけは相當に成し得たと思ふのであります。

五、外資提携上の注意

經濟協力に關し懇談を遂げて居ります間に、將來經濟的に協力をする場合、斯う云ふことを注意して貰ひたいと云ふ半ば苦情に似たやうな註文が一、二あつたのであります。それは我國に於て從來外國資本と結び付いて共同事業をしたもので、外國資本家側に有利に續いたものが殆どないと、色々實例を舉げて申して居りました。初めは非常に歓迎するが、特殊の技術を修得し、工業經營の方法に慣れて來ると、外國側の資本を除きたいやうな態度を見せて來る。共同事業と云ふものはそれでは外國側に取つてうま味がないのだ。だから假りに將來北支中支等に於て日獨が共同して事業を興すやうな場合が來たならば、同等の權利の上に立つことを原則として貰はなければならぬ。斯う云ふ問題が一つ。もう一つは獨逸と日本が結付く場合には、獨逸には金がないのでありますから、隨て製造權であるとか機械のやうなものを資本として持つて來ることに當然なるのであるが、この製造權に對する道德心が日本の事業家には缺けて居る。從來新しい考案、新しいライセンスが獨逸に現はれると、逸早く日本から交渉に來るが、交渉の途中に於て何時の間にかその話が消えてしまふ。その實情を調べて見ると、ちゃんとその事業を日本で始めて居る。さうして巧妙に特許權の侵害にならぬやうに工夫をして知らぬ顔をして居る。又新式の機械が現はれると直ぐに日本は一、二事實つて、さうしてそれをコッビーして大手を振つて市場に出して居る。斯様にライセンスに對する道德觀念が缺けて居ることは洵に困る。斯う云ふやうな苦情があつたのであります。御參考の爲に申して置きます。

六、現行第二次四ヶ年計畫

今日獨逸に行はれて居ります四ヶ年計畫は、正確に申しますと第二次の四ヶ年計畫であります。一九三

三年ナチが政權を執りまして以來、一九三六年に至る四ヶ年間に付たのが第一次の四ヶ年計畫であります。

一九三三年の一月ヒットラーが政權を執りました當時の獨逸國內の事情は、一九二五年ロカルノ條約に依つて獨逸をして債務を果さしむる爲には獨逸の産業を興してやらなければならぬ。それが爲には資金を貸與する必要があると云ふので、米國その他から資金を獨逸に輸入することが決定されたのであります。之に依つて獨逸の産業は一時榮えまして、毎年二十五億マークの債務を果して來たのであります。然るにその後間もなく一九二八年頃から世界的の不況が始まりました爲に、二九年以後この外資の輸入が杜絶する様になつたのであります。その原因に因りまして政變が相次いで起り、遂に一九三三年にヒットラーが起つやうになつたのでありますから、先づ解決をしなければならぬ問題は資金難であります。それから失業難、農村難思想難、國防難等でありました。この中で焦眉の急と致しまして失業難を解決しなければなりませんので、之を救ふのに生産力の擴充を行ひ、種々の公共事業を促進せしめたのであります。又農村救済と致しましては耕地擴大の必要があるのでありますから、後で申上げまする勞働奉仕團の手に依つて、國內の荒蕪地を開墾させ、思想對策と致しましては、勤勞戰線の組織によつて勞資摩擦の一扫を圖りました。この組織につきましても後で申上げたいと思ひます。又青少年の思想教育には、ヒットラー少年團、勞働奉仕團の制度を採用致しました。再軍備に對しては條約を破棄し、國際聯盟を脱退致しまして、獨逸に必要とする適度の軍備を充實致したのであります。

財政經濟の復興は最も重要な問題でありますから、當時内外に最も信望高く、經濟界の最高權威者でありました中央銀行總裁のシャハトを起用して經濟大臣としたのであります。シャハトは彼の抱懷して居りました新經濟政策を實行致しまして、外資杜絶の爲に已むを得ず特殊手形を發行致しまする外、爲替管理法、

輸入統制、輸出振興、消費統制、生産統制、物價管理、資金統制等各種の統制を行つたのであります。シャハトは私が二年前に参りました際に、私に對して斯う云ふことを言つたのであります。自分の經濟大臣としての使命は、原料の自給を圖るにあるのだ。即ち原料自給が自分の政策の重點である。又原料を輸入するのには軍需工業上必要なものに對しては無制限に之を認める。又輸出品の爲の原料も制限を設けない。制限をするのは國民生活上堪へ得るもの、それがなくてもどうか斯うかやつて行けるものは極度に制限する方針で、今年（一九三五年）以後は絶対に入超を許さないと云ふ事でありました。其後の實績は果して氏の言明通り、一九三四年は二億八千四百萬マークの入超でありましたが、三五年は一億一千萬マークの出超となり、三六年は更に増進致しまして五億五千萬マークの出超になつて居ります。

この第一次の四ヶ年計畫の成績がどうであつたかと申しますことは、私が申上げるよりも二月の二十日にヒットラーが議會に於て聲明を致しました内政の成績を述べて居ります中の、主なる數字を申上げたらはつきりすると思ひます。即ち

	一九三二年	一九三七年（昨年）
國民所得	四五二億マーク	六八〇億マーク
生活指數	一二〇・六	一二五・一
工業生産高	三七八億マーク	七五〇億マーク
小賣の賣上高	二一八同	三一〇同
農業生産高	八七同	一二〇同
貿易總額	九一（一九三三）同	一一四同

でありまして國民の所得は四割増加したに拘らず生活指數は僅か四分しか増して居りません。即ち

國の歳入

六六

一四〇

失業者數

六五〇萬人(一九三三)

四七萬人

と云ふ状態であります。斯くして第一次の四ヶ年計畫は成功裡に了つたのであります。

七、第二次四ヶ年計畫の全貌

(一) 其の長官に人を得て

一九三六年の九月にヒットラーはニュールンベルグの黨の大會に於きまして、第二次四ヶ年計畫を發表致しましてその長官としてゲーリングを起用致したのであります。ゲーリングは御承知の通りにヒットラーの居ない時には何時も副總統格を以て、代つて仕事をする程の力のある人であります。さうしてゲーリングに四ヶ年計畫の實施に關する限り、各省を直接指揮し得る權能を與へたのであります。本來ならば經濟大臣のシヤハトが四ヶ年計畫の長官を兼ねるべき筈であるのに、ゲーリングを起用致したのは、主なる理由として二つあるのであります。一つはシヤハト博士に依つて獨逸財政の基礎が一應確立したので、第二次四ヶ年計畫實行の指揮者としては、エキスパートよりも貫目のある人が宜しい。又もう一つの理由は、四ヶ年計畫の實行はどうしても黨の政策に依つて、國民一致してやらねばならないのであるから、この最高指揮者としては黨の人が宜い。斯う云ふやうな考へ方からゲーリングが起用されたと思ふのであります。

(二) 本年計畫の狙ひ所

四ヶ年計畫の狙ひどころは何處にあるかと申しますと、食糧原料の自給と云ふことが重點であります。獨逸は今日食糧の約八〇%、原料の約五〇%を自給して居ります。それを第二次四ヶ年計畫に於て食糧の自給を一〇〇%とし原料の自給は一〇〇%と云ふ譯には參りませんが、出来るだけ高率の自給を行はんとする

のであります。

この自給計畫を樹てますのには先づ、全産業を計畫産業と非計畫産業とに分けまして、計畫産業に屬するものゝみについて統制を行ひ、色々異つた自給率の計畫を樹てゐるのであります。併しながら計畫産業のみに力を盡しますと、非計畫産業が衰微する虞がありますので、その間の調節についても相當に考慮されて居るのであります。計畫産業につきましても總て一〇〇%とする譯ではありません。戰時に於て必要な食糧原料は一〇〇%若くは之に近い高率の自給を狙つて居りますが、平時の原料については、爲替の流出することを防ぐ本來の目的と見合せて自給率が種々異なるのであります。獨逸は外國に對して賣らなければならない國でありますから、賣る爲には買つてやらなければならぬ。随つて通商上の關係から假令自國に於て自給出来るものでも輸入するやうな考へを持つて居るのであります。現在に於きましても、獨逸の緊張した生活に對して全く必要がないと思はれるやうなものが、引續き輸入せられて居りますのはこの關係から來て居ると思はれるのであります。

(三) 物資自給策の實行

自給策の實行方法と致しましては、第一には申す迄もなく國內資源の開發を一層振興することです。獨逸のやうな面積の小さな然かも科學の最も進んで居る國では、最早國內に残されて居る資源が無さうに思はれるのでありますけれども、やはり探求をして居ります中に今まで知られなかつた資源が発見されるのであります。例へば比較的近年發見された非常に大きな鐵鑛床の如き、是は伯林とハノーバーとの中間にザルツギッターと云ふ所がありますが、その地下に貧鑛ではあるけれども二十億噸以上の鑛床を発見したのであります。國內油田に乏しいことも日本とよく似て居ります。それでも油田試掘の爲に政府は必要な經費の半分を助成して居るのであります。食糧政策に對しましては先程も申しました通り、頻りに耕地の

擴大に努めて居ります。

(四) 廢物利用と代用品使用

資源開發の次に考へられて居りますのは消費の節約であります。國民一般にこの觀念を鼓吹することに努めて居ることは勿論でありますが、その外技術的には色々の混用品——人織の混紡、揮發油にアルコールの混用等が勵行されて居ることは、我國の事情とよく似て居るのであります。その次の廢物の利用であります。是は極めて徹底して上手に行はれて居ります。廢物利用と云ふことはその利用すること自身が難かしい上に、廢物を蒐集することが困難であり、不經濟であることが普通であります。ナチになりましてから廢物の蒐集に努めたのでありますけれども、どうも手數と費用がかゝつてその實績が擧がらなかつたのであります。近頃は之を極めて組織的に致しまして、黨の指導に依つてヒットラー少年團又は勤勞戰線の會員をして之に當らしめて居りますので、非常に成績を擧げて居ります。その次は代用品の研究と應用であります。今日種々の代用品が實用化され、この方面に於きましては世界何れの國と雖も獨逸に及ぶものはないと思ひます。人造纖維、人造ゴム、人造石油、人造樹脂等、獨逸は人造品國と言つても宜い位に人造品が發達普及されて居るのであります。

(五) 自給計畫の諸相

イ、食糧

自給計畫に入つて居ります原料の品種はどう云ふものであるかと申しますと、第一は食糧でありまして、是は今申した通りに現在約八〇％の自給でありますが、四ヶ年計畫の終りには之を一〇〇％にする考へを持つて居ります。併し是は中々難かしいことであると思ひますのは、勞働奉仕團が過去四ヶ年間に荒地の開墾、河川の改修等に依つて行ひました新耕作地は、約二十五萬町歩になるのであります。獨逸の人口は

毎年約四十五萬人づゝ殖えて行くのでありますから、この増加する人口に對しまして必要な耕作地面が考へられなければならないのであります。さう云ふやうに考へて参りますると、將來四ヶ年間に二十五萬町歩位の擴大では中々追付かないのであります。

口、油 脂

工業原料に付て申しますると、先づ油脂であります。油脂の主なる原料は大豆であることは御承知の通りで、現狀に於きましては約五割は自給致して居るのであります。之につきましては出来るだけ代用品の應用と云ふことを研究して居ります。一部成功して居りますのは、從來大豆油脂に依つて造つて居りました石鹼を、今日では全部ではありませんけれども、石炭液化の副産物として出来ますパラフィンから合成脂肪を造りまして、それに依つて石鹼を造ることが既に實現して居ります。尙、是は滿洲大豆に取つて今日のところでは未だ恐ろしい競争者ではありませんが、現在その代用品として東阿弗利加或は印度等から落花生が入つて居ります。又ルーマニヤからも大豆が輸入されて居ります。ルーマニヤの大豆は今日僅かに三萬噸位であります、大して恐るゝに足らないのであります。ルーマニヤの土地は墾墾でありまして、適當な肥料を用ひなければ大豆も出来ない。その特別の肥料を獨逸から輸入して、それを大豆にして獨逸に送つて居るやうな關係でありますから、將來相當に發達するものと考へられるのであります。

ハ、液體燃料

それから液體燃料であります。是は御承知の通り獨逸に於ては人造石油事業が最も發達して居るのであります。この人造石油の技術につきましては歐洲戰爭以後研究を行ひまして、ヒットラー時代になるまでに、既に工業化する程度になつて居たのであります。第一次の四ヶ年計畫に於きましては之に依つて出来るだけ澤山のガソリンを造ることに努力致したのであります。今日行はれて居ります石炭液化の方法は三つし

かないのであります。一つは低温乾餾に依つてタールを拵へて、それに水素を加へて液化する方法。それから石炭に直接水素を添加致しまして造るイー・デーの方法。又石炭から合成瓦斯を造つてこれから石油を造る合成法。この三つの方法に依つて出来るだけ澤山のガソリンを採ることが石油に對する第一次四ヶ年計畫でありました。ガソリンをも含む輕油全體について申しますと、一九三三年には輕油の需要が百六十萬噸であつて、國産が五十五萬噸、是は主として天然油から採つたのであります。一九三六年には需要が二百八十萬噸に殖え、國産も亦百六十萬噸に殖えて居ります。この國産が殖えたのは主として人造石油に因つてゐります。第二次の四ヶ年計畫に於きましては揮發油の増産を圖ります外に、揮發油以外の油即ちディーゼル油、燃料油、潤滑油、瓦斯油、パラフィン等の増産も計畫されて居ります。併し是等に依つて四ヶ年後に獨逸の全需要を自給すると云ふことは到底出来ないものでありまして、恐らくその時になつて百萬噸位の輕油は之を輸入に俟たなければならぬと考へられるのであります。

二、鐵

鐵につきましては一九三六年の銑鐵の生産高は千五百萬噸でありました。昨年の日本の生産高が二百五十萬噸だと思ひます。それから鋼の生産高が獨逸では千九百萬噸、日本は昨年は約五百五十萬噸であつたと承知して居ります。この千五百萬噸の銑鐵、千九百萬噸の鋼を造るに必要な鐵鑛は、その大部分を輸入に仰いだのであります。國産鐵石は僅かに六百萬噸で、二千萬噸は輸入鐵石であります。此點全く我國と同じであります。先程申上げました様にザルツギッターと云ふ所の地下に二十億噸に餘る貧鐵の埋藏が発見されましたので、この貧鐵を利用して一大製鐵所をザルツギッターに建設する計畫を政府が樹てまして、これを民間製鐵業者に相談しましたけれども、如何にも算盤に合はないので誰も引受ける者が無い。已にを得ず政府は之を國營と致しまして、その名前もゲーリング製鐵所とつけて、目下建設中であります。出來上

りますれば、鉄鐵四百萬噸、鋼六百萬噸を生産し、千二百萬噸の熔鑄爐が卅二本一ヶ所に建つと云ふ驚くべき大規模のものであります。併しこの計畫は奧太利の併合に依つて多少變更が加へられるだらうと思ひます。御承知の通り奧太利は非常に良質の鐵鑛を生産することを以て知られて居るのであります。歐羅巴に於てはその質の良いことに於て瑞典と匹敵する位でありますから、奧太利の鑛石を用ひることに依つてこのゲリーング製鐵所の事業計畫も多少變更が行はれるのではないかと思ふのであります。

木、紡績原料

それから紡績原料でありますが、是は最も悲觀すべき状態にあるのであります。國內の自給は僅かに一七・八％でありまして、八三％程を輸入に仰いで居ります。一九三六年の原料輸入總額の四分の一は紡績原料に對して費されたのでありまして、六億馬克に近い金となつて居ります。第二次四ヶ年計畫に於きましては固より一〇〇％の自給を行ふことは出来ないのですが、棉花の五割、羊毛の二割を人造纖維を以て置換へる計畫を樹てゝ居ります。隨て人織工業は非常な勢を以て發展しつゝありまするが、問題は我國と同じくバルブ用材でありまして、若しも四ヶ年計畫が完了する頃までに代用品が應用出来るやうにならなければ、針葉樹だけでは需要の一乃至一二％しか自給することは出来ない。その爲めに針葉樹以外の闊葉樹に對して研究が行はれ、その中の榲の如きは立派に成功して實用に供せられて居ります。その外色々のもの、例へば穀物の莖の如き殆ど工業化する程度に進んで居ります。人造羊毛につきましては、伊太利では御承知の通り牛乳から造つて居ります。まだ工業化程度ではありませんが、相當なものが出来て居ります。獨逸では之を鯨の肉から拵へることに研究室では成功致しまして、是から工業的實驗を行ふ程度に進んで居ります。

へ、鑛 謨

ゴムにつきましては人造ゴムの完成に依つて、四ヶ年後には全く自給し得る期待を持つて居るやうであり

ます。今日のゴムの消費は約八萬噸であります。之をイー・ゲー染料會社の考案に係るブナと稱する人造ゴムに依つて自給しやうと云ふのであります。このブナは現狀に於きましては生産費が天然品の約三倍位にもなるのでありますから、一般に利用はされて居りません。唯軍用にのみ供されて居ります。而かもその品質は天然品に比べて色々優秀な點がありまして、耐油性の如き、耐熱性の如きは天然品よりもずっと宜しいのであります。唯イー・ゲー會社に於て目下二つの大きな工場を建設中であります。是等の工場が出来まして多量生産を行ひ、又一面技術が向上致しますれば將來生産費の低下は相當に行はれ得ることゝ考へます。

ト、輕 金 屬

次は輕金屬であります。之について考ふべきものはアルミとマグネシヤであります。アルミは世界最大の産額を以て獨逸は知られて居りますが、何分にもその原料たるボーキサイトは輸入を致して居るのであります。目下このボーキサイトに代へるのに國內の粘土を用ひることを研究し、是も工業化する程度になつて居ります。マグネシヤにつきましては澳太利の併合に依つて全く解決したのであります。澳太利は世界最大の良質マグネシヤ鑛石の産地であります。從來獨逸は澳太利のみから輸入して居つたのでありますが、之を併合したことに依つてこの問題は完全に解決したのであります。

(六) 生産力の擴充

扱第二次四ヶ年計畫乃ち原料自給計畫を實行するのには、唯政府の力だけではないのであります。非常に難かしい事業でありますから、その實施の基礎條件と致しましては次に述べるやうなものがありません。第一には生産力の擴充と熟練工の養成であります。是は極めて皮肉な變り方でありまして、第一次四ヶ年計畫は失業救済と云ふことが重要な問題の一つでありましたが、是が解決して却つて職工が不足になつて來た。第二次計畫に於ける生産力の擴充を行ふのに熟練職工の不足を來した。でありますから現在の特

に熟練工の養成に對して、政府は民間事業會社に強制して居るのであります。熟練工養成の仕方につきましては我國と多少事情を異にして居りますから申上げませんが、唯參考としたら宜しいかと思ふ點を二、三だけ申上げて見たいと思ひます。

イ、第一の基礎條件

その一つは熟練工の養成は建前として各事業會社が自己の利益の爲めではなく國の爲に行つて居るのであると云ふ觀念から出發して居るのでありますから、この養成所を出た者はその事業會社に留つて勤務する義務が全くないと云ふことであります。尙一つは徒弟の養成に工業徒弟と商業徒弟と二つありますが、商業徒弟と雖も將來その任務を全うするには、工業の實際を體驗して行かなければならないと云ふ意味から、商業徒弟としての期間中に工業徒弟の行ふやうな實習を六ヶ月間、毎日一定時間づゝ行はせることになつて居ることです。尙是は徒弟教育とは別の問題でありますけれども、獨逸の青年男女は、學校を卒業して給料生活に入る前には、必ず或る期間の實習教育を受けなければならぬことになつて居ります。普通教育を了つた者は四ヶ年間、中等教育を了つた者は二ヶ年間、専門學校以上の高等教育を了つた者は一ヶ年間自分が進まうとする職業に對して實習教育を受けなければ給料を取ることが出来ない。斯う云ふ法律が存在して居ります。如何に實習と云ふことに重きを置いて居るかゝ窺はれるのであります。即ち基礎條件としての第一は、熟練工の養成であります。

ロ、第二の基礎條件

第二の基礎條件は全體主義的精神が產業界に確立して居ることです。是は二年前に參りました時と今回とを比較して見ますと、著しくその點が目立つのであります。二年前に參りました時には、私の極く親しくして居ります産業人の間に、統制經濟について相當不平を漏して居つた者もあります、今回行き

まして同じ人の話が全く變つて來て居ります。これは統制經濟が非常に圓滑に行はれて居るからであります。て、産業界全體主義的精神が徹底して來たからであります。

ハ、第三の基礎條件

第三の基礎條件は勞資間の摩擦が美事に一掃されたことであります。先程も一寸觸れましたやうに、ヒツトラー政權となりまして直ちに勞働者の總ての組合と、之に對抗して存在して居つた總ての雇主側の組合を解消したのであります。之に代るに勤勞戰線の單一機關を以てしたのであります。

アルバイトフロント、之を譯して勞働戰線と云ふ人もありますけれども、實質に於きましては寧ろ勤勞戰線と申した方が宜いのであります。苟しくも産業界に給料生活をして居る者は如何なる階級、如何なる身分の人でも、毎月一定の會費を納めてこの勤勞戰線の會員となつて居るのであります。最低は月四十ペニヒ、最高でも十二マーク。會員の數が壘國併合前に於て人口の約三分の一、二千四百萬人位あるのであります。約四億マークの財源が出来るのであります。是だけの財源を持つて居れば、摩擦解消の爲の相當の事業が行ひ得るのであります。この勤勞戰線ドイツチエ、アルバイト、フロントを略してD・A・Fと謂ひます。

ニ、D・A・Fの眞價

D・A・Fの重要な一つの機關としてK・リ・F（クラフト・ドルヒ・フロイデ、即ち喜びを通しての力）と云ふのがあります。各人が働くのには朗な心で、嬉しい心でやる事が最も能率を高くする鍵である。どんな巧妙な管理法等が行はれても、最高の能率の鍵は歡喜に充ちた心で仕事に就く、朗な心で自分の職務に従事することにあると云ふ意味から出來て居るのがこの機關であります。K・D・Fではどんな仕事をするかと云ふに、從來有産階級若は特權階級でなければ味ひ得なかつた趣味生活を、無産階級或は下層階級の者でも餘暇を利用して、極く輕微な費用を以て味ひ得るやうにする。是がこの機關の目的でありまして、毎年色々の行

事が行はれて居ります。例へば良い芝居、オペラ、映畫を觀せるとか、スポーツ、ハイキング、旅行、文化教育等であります。一年三百六十五日の是等各種の趣味生活のプログラムが相當前から準備されて、之を會員に配つて自分の希望するところへ記入する。さうして纏つたものに依つて正確なプログラムを決めるのであります。勿論會員であつても有産階級の人は遠慮しますから、隨て實際は無産階級の者が多く集つて來る。不思議な事は今日では寧ろ無産階級の者の方が海外旅行が出来るのであります。日本でもさうであります。御承知の通り爲替管理の結果、金を國外に持出すことは出来ない。官吏か又は特殊の用務を帯びた者には政府の許可を得て外國に行くことが出来ますが、普通は十マーク以上は持出すことが出来ぬので、是では一度の食事にも足りない程であります。然るにこのK・D・Fの會員はさう云ふやうな目的でありますから、勞働者の休日時を利用して、團體として海外に旅行する事が出来ます。明後年は東京のオリンピックに一萬二千人の獨逸人が大舉して來ると云ふ事が知られて居りますが、是は全くK・D・Fの機關に依つてD・A・Fの會員がD・A・F所有の新造船四隻を仕立てゝ來ることになつて居るのであります。先達ても塊太利併合問題で國民投票が行はれました。是は國內ばかりでなく、國外に住んで居ります獨逸人にも出来るだけ投票をさせたのであります。それが爲にD・A・Fの船一隻を仕立てゝ、會員を旅行させる目的が一つと、又英國に住んで居ります獨逸人に海洋に於て投票させる目的が一つでありました。さうしてその爲にサザンブトンまで行きました、その海上に於て在英獨逸人が投票をしたのであります。是は極めて巧妙な宣傳の仕方でありまして、長く外國に住んで居る獨逸人には自國の大衆の生活狀態がよく分らない。然るに投票の爲め船に行つて見ると、無産階級の者が實に樂さうに旅行などして居ると云ふことが分りますので、本國は今日非常に改善しつゝあることを知つたのであります。

獨逸民衆の生活状態は非常に窮屈だらうと云ふことをよく聞かれます。私はそれに對して決してさうではないと答へるのであります。固より卵やバターが切符制度で行はれて居ることはありますが、卵、バターは相當量輸入致しますから、之を制限する意味で行はれて居るのでありまして、その他の食糧については固つて居るようなことはありません。二年前とは非常な違ひであります。私は亞米利加、英吉利、獨逸の労働者の生活状態を斯様に比べて見て居ります。それは収入に於て最も優れて居るのは勿論亞米利加の労働者であります。之を製鐵業に従事して居ります職工について申しますと、亞米利加の製鐵職工は今年三月の労働統計に依つて見ますと、平均一時間當り米貨で八十一仙八になつて居ります。英吉利の同種の職工は、週間三磅位と承知して居ります。隨て四十八時間で三磅を割りますと時給は米貨の三九仙に當るのであります。獨逸の職工は一時間一マーク取つて居ります。之を米貨に直しますと二十五仙に當ります。是から見ますと獨逸の職工が一番収入が少ないことになるのでありますが、生活の状態について申しますと、亞米利加の職工は家庭的には餘り惠まれて居ないと私は思ふのであります。亞米利加人は今日労働者でも明日大統領になるかも知れないと云ふ抱負を持つて居ります。又生活が奢つて居ります。職工でも大部分は自動車を持たなければならぬ。先達でも桑港でハーディング記念公園に行つて見ました時に、數十臺の自動車が集まつて居りましたから、何か集會があるのかと尋ねて見ますと、是は公園の土工に來て居る土工の自動車だと云ふことであります。その他良いレストランへ入るとか、良い着物を着るとか、収入の大部分が個人の生活の爲に使はれますから、家庭生活をする者が比較的少く、又離婚の數も一番多いのであります。英國の職工について申しますと、英國人は誰も彼も彼も政治を知つて居なければならぬ。下宿屋のお内儀さんでも、煙草屋の娘さんでも、自由黨であるとか保守黨であるとか言つて居るのでありますから、國民が全部政治を知つて居なければならぬ。又労働組合の最も發達した國でありますから、労働者は誰もどれかの組合に入

つて居ります。即ち労働者はクラブ生活と云ふことに餘暇を潰すことが多いのであります。クラブへ出入りすれば勢ひ酒を飲み、収入の相當部分がそれに取られる結果、家庭に對して使ふ金が窮屈になつて来る。家の中は實に暗く、非衛生的であります。然るに獨逸の職工はさうではない。ナチになつて最も力を盡したのは、労働者の住宅の増築でありました。是は失業對策の一つとしてでもありましたが、先づ無産階級の住宅を造ると云ふことに力を注ぎました。その結果今日工業地帯に於きましては多數の労働者が明るい綺麗な住宅に入つて居ります。私は工業都市へ參る度にそれ等の住宅について視察を致しましたが、さう云ふ良い家屋に住むことになりますと、自然に内容を整へようとする心持になりますから、その方へ収入の大部分が費される。餘暇の利用は先程申しましたK・D・Fの機關に依つて家族と共に極めて輕微で出来るので、身錢を切る必要がない。又労働組合は一切なくなつたのでありますから、さういつたものに對する交際の金も要らない。隨て収入は比較的少いのでありますけれども、生活上最も恵まれて居ると私は思ふのであります。要するに四ヶ年計畫の實行の基礎條件となりまする勞資摩擦の解消と云ふことが美事に行はれて居るのであります。

へ、第四の基礎條件

第四の基礎條件は事業の自主性が尊重されて居ることであります。統制は強く行はれて居りますけれども、業者の自主性も多分に尊重されて居ることあります。統制が強ければ自主性は尊重されないことになるのでありますが、私の申上げるのは實質的に自主性が尊重されて居ると云ふことであります。是に就ては私自身の意見を申上げるよりも、今日統制經濟の中心となつて居ります四ヶ年計畫部の次長、即ちゲーリングの直ぐ下に居りますケルナーとの話の一節を申上げた方がお分り易からうと思ひます。ケルナーは斯う云ふことを言つて居りました。『統制は決して政府が一方的に決定をして、之を民間に強制するやうな仕方をし

て居るのではない。各種の統制はその統制法を決定するに先だつて民間の縦と横との連絡機關（縦の連絡と申しますと各部門の地方並に中央の經濟團體でありまして、横の連絡と申しまするのは、地方並に中央の商工會議所であります）の代表者と十分に懇談を遂げて、彼等が十分に諒解した後に決定するのであるから、之を正確に實行するのだ」とて、色々實例を述べて居られました。

又ケルナーの談の中に「政府は事業の直營をしないことを原則として居るのだ。今日までに直營事業となつて居たものは、アルコール專賣だけである。唯一の例外は國營製鐵所である。是は民間に於てどうしても引受けないので、已むを得ず直營としたのだ。」と言つて居りました。即ち實質に於ては自主性を多分に尊重して居ると云ふことであります。

ト、第五の基礎條件

第二計畫實行上の第五の重大な基礎條件は創造力の有効なる動員であります。獨逸は世界工業のバイオニヤを以て任じて居ります。昔から獨逸の研究機關は世界に定評がありまして、國勢がどんなに衰へて居る時でも研究機關丈は不斷の發展を遂げて來ました。私は行く度にこれを認めて來たのであります。政府の研究所は勿論、各大學の研究機關、各事業會社の研究機關、何れも絶えず擴大されつゝあります。事業會社の研究機關の中で最も大きいのはイー・ゲー染料會社の研究所でありますが、茲には千四百人の博士、學士を研究のみに没頭させて居ります。研究設備の完備して居る事は申すまでもないことでありまして、イー・ゲー會社の研究所で一年に使ひます經費は、五千萬マークに上るさうであります。非常なる多額の經費を使ふやうでありますが、化學工業に於て今日新發明は大抵イー・ゲー會社のものであります。人造石油、人造纖維、人造ゴム、人造樹脂など凡そ人造と名の附くものは大抵イー・ゲー會社の發明考案であります。千に一つの新發明が成功しましても、年に五千萬や六千萬の金は決して無駄にはならないのであります。而もそれ

が國家の爲に非常な貢獻となるのであります。獨りイー・ゲーのみならず、或はシーメンの研究所の如き、クルツプの研究所の如き、又テレフンケンの研究所の如きどの研究所でも驚嘆をしないでは居られないのであります。洵に羨ましいと思つたのであります。

斯様な基礎條件が備つて居るのでありますから、この四ヶ年計畫の實施も恐らく成功裡に終るのではないかと思います。

八、國民精神總動員の華

私は二ヶ年前に獨逸から歸つて各所でお話を申上げた時に、ナチは將來財政上の原因から行詰り、崩壊する時が来るであらうと云ふ人も澤山あるが、自分はどうしてもそれを信じることが出来ない。普通の經濟原則から謂へば非常な無理があるから、行詰るであらうと云ふ考へは尤もであるけれども、ヒットラーによつて國民の精神力が總動員せらるれば、如何に苦しい難關でも乗切るであらうと云ふことを申上げたのであります。二年後の今回行つて見まして、界して私が信じました通り、もうナチスの基礎と云ふものは大磐石になつて居ります、その原因について二、三申上げたいと思ひます。

(一) 國內の統一

第一には國內の統一が完全に行はれて居ると云ふことであります。是が證左として今年の初めに斷行されました軍と黨との統一と從來黨外の人に依つて占められて居つた閣僚の椅子を、全部黨員を以て充當したことであります。又、最も重要な問題は、將來を背負つて立つべき青少年に對して、思想教育が徹底して行はれて居ることを擧げることが出来ます。青少年に對する思想教育としては少年團少女團の教育、又最も有効なのは後で映畫で御覽に入れます勞働奉仕團の制度であります。映畫の説明を兼ねてこの勞働奉仕團のこと

を簡単に申上げますと、その目的は完全なる自營の共同生活することに依つて民族精神を作興し協同觀念を植付けること、勞働の尊重すべきこと、獨逸の青年は國家に對し總て一定期間勞働を奉仕するの義務があることを自覺せしむるにあります。一年を二分しまして六ヶ月毎に交代するのでありますが、男子は強制で現在全國に千四百以上のキャンプがあります。一つのキャンプには平均百五十人づゝ入つて居ります。このキャンプ生活をしてゐる間は家庭と全く絶縁致しまして、月に一回だけ家庭に歸る事を許して居ります。總ての生活條件は如何なる階級の者も全く同一でありまして、家庭から一切小遣や物品を送ることが出来ないで、小遣としては一日に二十五ペニヒづゝ團から給せられるのであります。自營自炊の生活でありまして、朝は夏は五時、冬は六時に起きて六時間の勞働に従事し、その他の時間は指導者からスポーツ社會教育等色々の指導を受けるのであります。是は決して教へるのではなく指導者が團員を指導するのであります。その指導者には又指導者養成所と云ふのがありまして、前以て教育を施すのであります。女も同じであります。女は強制ではないのであります。併し是も強制にする目的を以て、現にキャンプを増設中であります。現在は六百のキャンプがあつて、一つのキャンプに三十五人乃至五十人の女子を收容して居ります。年齢は男は十八歳から二十一歳に至る間の者で、それが済むと直ぐ兵役に就く。女はそれが十七歳から二十八歳迄の未婚者となつて居ります。女は強制致しませんけれども、奉仕團生活を了へた者は嫁に貰つても職業に従事させても、まるで他の者と違ふと云ふ點から、一つの立派な資格になり、非常に志願者が多くなつたが爲めに、之を強制にすることに内定して居るのであります。

この制度は如何なる階級の父兄にも非常に歡迎されて居るのであります。殊に上層階級の人が喜んで自分の可愛い息子をこの勞働奉仕生活に送ることを誇とするやうになつて居ります。私が二年前にキャンプを見學に参りました動機は、私の親友でありますクルツプの社長クルツプ・フォン・ボーレンの家へ参りました

時、丁度自分の次男がキャンプ生活をして居るから、行つて見てやつて呉れぬかと云ふので、ベルリンの近郊ナウエンに在るキャンプに参りまして、非常に感激したのでありますが、今度又クルツプの家へ泊りましたところが亞米利加へ留學して居る筈の三男が其處に居會はしたので、お前どうして獨逸へ歸つて居るのかと聴きますと、親父は何とも言はないが、母がお前は勞働奉仕をする歳になつたから一遍歸つて來い。それが済んだら又留學を續けろと言ふので歸つて、來て丁度了つたところだと云ふ事でありました。外國へ行つて居れば延ばすことも出来るのであります。然るに獨逸第一の金持と言はれ、産業界の大立者であるクルツプ家に於て、そのお母さんが斯様な考を持つて子弟の教育を致して居るのであります。以て勞働奉仕團の制度が如何によく行はれて居るかと云ふことが推察されるのであります。

この勞働奉仕團の手に依つて四年間に開墾した耕地の面積が二十五萬町歩それから植林が十四萬町歩等でありまして、是等に依つて國としての増收額が一年約五千萬マークに上つたと云ふことであります。近頃我國でも勞働奉仕の聲が相當高くなりまして、文部省でもこの暑中休暇等に方々で實行する事になつて居るさうで洵に結構でありますけれども、私は日本の様に短期間では恐らく効果が少なくはないかと思ひます。私は海軍に居りました時職工と一緒に修養團に入つて講習を受けたこともあります。一週間ばかり離れ島へ行つて共同生活をして色々精神上のお話を聴きますと、全く眼が醒めた様になりますが、歸つて一月もすると繕りが戻つてしまふような氣がします。五日や一週間位、而も氣候の良い時を選んで勞働奉仕をするのでは効果が少ないかと思ひます。今日我國では長期抗戰に對する國民精神總動員が叫ばれて居りますが、これを單に戰爭期間中だと思ふ者があれば大なる誤りであります。戰後に於て一層國民生活上に色々な壓迫が加はるでありませうが、之を押切つて行くには全國民の緊張一貫の精神力に依らなければならぬ。特に次代の責任者である青年がその氣にならなければならぬのでありますから、之が爲めには國情に適するような相

當長期の勞働奉仕の生活が一番宜しい。階級的對立感念を打破し、生活上の困苦に堪へる習慣をつけ、協同の觀念を養ひつゝ國家の爲に勞働を奉仕する、この制度を一日も早く實行することが國策上必要であると思ふのであります。是が獨逸をして今日あらしめ、國內統一を永遠に期待せしめる大きな原動力であると云ふことを申上げたい爲に、諄々しく申上げた譯であります。

(二) 軍備の充實

第二には軍備の充實せることであります。この内容についてはよく知りもしませんし、又申上げることもしませんが、この軍備が充實して居つたればこそ、あの如く手際よく奧太利の併合と云ふことが行はれたので、踏切の捧一つ外せば直ぐに數十萬の兵隊がなだれ込み得るやうな状態になつて居つた。是は全く背後の兵力が整つて居つたからであります。

(三) 完全なる經濟管理

第三は國勢の躍進せることでありまして、これに就てはヒットラーの演説を引用して數字を以て前に述べた通りであります。殊に貿易の振興しつゝある點であつて、是が爲には輸出品用原料の輸入に制限を設けな

い。聞くところに依りますと、日本には輸出品用の原料を國內用に轉換して巨利を占めようと云ふ者もあると云ふことであります。なければ仕合せでありますが、左様な聲があると云ふことは聊か貿易業界の恥辱であると私は思ふのであります。獨逸に於きましては是が出来ないやうになつて居ります。この目的を以て出来て居るのが物資管理所の制度でありまして、全國に品種別に二十八の物資管理所が出来て居ります。化學工業用原料であるとか、鐵鋼であるとか云ふやうに品種毎に管理所が出来て居りまして、茲で國產並に輸入原料の配給、生産、價格、貯藏等の統制を行つて居るのであります。私はその中の化學工業用原料の管理所を視察致したのであります。洵によく運用されて居ります。原料を國產品と輸入品とに分けて、國

産原料の割當につきましては各要求者の前三ヶ月（三ヶ月が一期）の實情を参考とし、次期の申請を考慮して割當てるのであります。又輸入品に對しましては爲替管理局から各品種毎に割當てられた爲替額によつて是も前期の成績を参考として各輸入業者に割當てるのであります。私は案内者に斯う云ふ風にやつても賣惜みとか、買溜めとか、或は外需を内需に轉用するやうなことはないかと尋ねますと、調査が正確に行届いて居るので、決して左様な事はありませんと申しました。又申請に對する査定期間はどの位かと聞きますと、平均三日だと答へました。斯様に物資管理所の運用が極めて圓滑に迅速に行はれますのも、その原因は全體主義の精神が産業界に徹底して居ることに外ならないのであります。

（四） ヒットラーの人格化

第四は、ヒットラーはその人格を以て國民を完全に把握して居ることであります。ナチスの政策に反對して居る人でも、一度ヒットラーに會へば必ずその人格に打たれないでは居られないと申します。彼の肉體的精神的の純潔性に感動させられるのであります。ヒットラーは四十八歳の壯年であります、酒も飲まず、煙草も吸はず、歐羅巴人でありながら肉食を斷ち、獨身を續けて居ります。社交界には只元首として絶對に避くべからざる場合の外一切顔を出さない。然れども青少年の指導と、國民に呼びかける場合とはどんなに忙しい時でも街頭に立つを厭はない。斯様な人格者でありますから、今日國民のヒットラーに對する、恰も神に對する如くであります。併しヒットラーは何時まで生きる譯ではありません。そこで後繼者が問題となるのであります、ヒットラーの如き人物は、容易に現はれるものではありません。隨てヒットラーの意思を繼ぎ、人格を繼いで國を護る者は次代の青年でなければならぬのでありますから、青年一般に勞働奉仕の如き教育を徹底せしめ、この基礎の上に造られた團體としての人格と意志とに於て自己の後繼者を求めんとして居るのであります。

九、結

論

私は獨逸を去つて伊太利でムソリーニ會ひ、又英吉利、亞米利加を通つて歸つて案たのであります。歸り路にも色々のことを言ふ人がありました。日獨の關係は長続きしないだらう、と云ふやうなことをちよいちよい聞いたのでありますが、私は日獨間のことに就ては決してさやうなことはないと思ふのであります。ナチの最大目標は世界を赤化から救ふことであつて、これが爲には日本と獨逸は益々強く握手しなければならぬと信じて居ります。最近出ました英吉利の前航空大臣ロンドンリーの著はしたアワーセルヴス・アンドン・ジャーマニーと云ふ本の中にも、ヒットラーとの會見記が載つて居りますが、赤化の恐るべきことを諄々として説き、英吉利はその對日政策を變へなければ、結局は禍が自分の國に振り掛るのである。假に日本がソビエツトと戦つた場合に日本が萬一負けたとしたならば、東洋は赤化され、延いては印度も亦赤化されることになるであらう、と警告して居ります。最近獨露の接近に關する新聞記事がありました、私は斷じて左様な事はないと信ずるのであります。ソビエツトが聯盟の一員たる限り、決して聯盟に復歸することはしないと云ふことは、二月二十日のヒットラーの演説の中にも明言して居ります。總ての目標が共產主義の撲滅にあるとなつて居りますから、露西亞が何かの動機で赤から白へ變るやうなことがあれば兎も角、然らざる限り露西亞と手を握るが如きは絶対にあり得ないと確信するのであります。假令將來佛蘭西と結付くことはあつても、露西亞と手を握ることは絶対にないと信じて居ります。

我國としましては固より東洋の安定勢力を以て任じて居るのでありますけれども、更に日、獨、伊三國の樞軸に依りまして世界永遠の平和招來に努めることが一大使命ではないかと私は思ふのであります。

長時間に亘つて御清聴を感謝致します。

昭和十三年八月十二日印刷
昭和十三年八月十五日發行
非賣品

總發行所 東京市神田區七島町一七

編輯人

齊藤眞

印刷人

東京市神田區住吉町五ノ五八
鈴木清五

印刷所

東京市神田區住吉町五ノ五八
横濱活版會

發行所

東京市神田區新井町一丁目
社団法人 横濱貿易協會